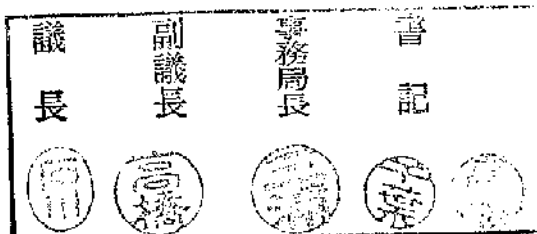


第161関係様式



調 査 研 修 報 告 書

令和7年8月3日

大郷町議会議長
石川 良彦 殿

会派の名称 真成会

代表者（議員） 金須 新一



下記のとおり政務活動調査研修のため旅行したので、大郷町議会運営に関する基準第161の規定により報告いたします。

記

1. 期 間	令和7年7月29日～7月30日（2日間）	
2. 調査地	7月29日	
	乙な駅たまかわ	福島県石川郡玉川村大字竜崎字滝山 12-26
	遊水地群（第2）試験圃場	福島県西白河郡矢吹町陣ヶ岡地内
	田んぼダム	福島県須賀川市笹平地内
	本宮右岸パークゴルフ場	福島県本宮市高木字長瀬 6 0
	桑折左岸ピーチパーク	福島県伊達郡桑折町大字伊達崎字古返り
	7月30日	
3. 所 感	福島ユナイテッドFC	
	十六沼公園（練習拠点）	福島県福島市大笹生字組板山 1-7
	安斎果樹園	福島県福島市飯坂町字小川 15 番地
	ふくしまさいえねパーク	福島県福島市飯坂町平野字杉田 31
所 感	所感については、別紙のとおり。	



※調査内容、出席者名、旅程表については、計画書と相違がある場合は、その内容と理由を明記したものを添付すること。

所 感（各視察先の現状とまとめ）

玉川村「乙な駅たまかわ」

東日本大震災以降活用されていなかった民間施設を村で買取りリノベーションし、交流拠点となるよう整備した。

村の財政上、多額の費用を一括で支払うことができないため、施設の整備には全国でも珍しいPFI（民間資金活用）のDBFO方式（設計、施工、資金調達、運営までを一括で民間に発注する手法）が採用され、本施設整備のために設立されたJV（共同企業体）は、三柏工業（施工）、隈研吾建築都市設計事務所（デザイン設計）、阿武隈ビールとトーカンオリエンズ（運営）、三菱HCキャピタル（資金調達）が参画することで実現した。令和6年9月のオープン後の集客は好調で、令和7年6月には6万7,000人を達成。7月には7万人が来場する見込みであるなど、予想を上回る賑わいを見せているとのことだった。施設では、キッチンカーによるイベントのほか、カヌーやSUPなどのアクティビティについても、関係機関と連携して安全対策が徹底して実施されている。

JV参加企業に対しては、3年程度の期間を費やし村からアプローチし準備を進めたほか、他地区の住民からの整備反対の声はあったものの、施設周辺住民宅を訪問し説明を実施することにより地元が味方となり、地元の人たちが賛成している事実により、スムーズに事業が進んでいったとのことだった。

建築家の隈研吾氏が初期に設計した建物を地域資源と位置づけ、この建物を中心に「賑わいと交流の場となる空間」を創出するかわまちづくりを住民の声を踏まえ実施している。

矢吹町遊水地群（第2）試験圃場

阿武隈川緊急治水対策プロジェクトにより整備される遊水地群は、掘削し容量を確保する「全面買収方式」をとっている。今回視察した矢吹町遊水地群においては、買収方式の遊水地が水田等の占用が可能となったことをうけ、農地再整備の検討のため、計画の掘削高まで掘り下げた後、水路整備や表土戻しを行った試験圃場を整備し成育状況等の調査を実施している。

須賀川市田んぼダム

須賀川市では、準用河川である笹平川下流域で度重なる浸水被害が発生していることを受け、その対策として流域にある水田が持つ貯水機能に着目し、田んぼをダムのように活用する「田んぼダム」の取組みを始め、日本大学工学部と共同で調査・研究を進めている。柵を設置することに同意いただいた田んぼに市が設置（10万円/箇所・所有は市）し、稲の生育に支障が出ない範囲で田んぼを所有している農家の判断により止水版を操作し、田んぼに水を貯めるといったも

のであり、維持管理は「西川たんぼダム協力会」に年額 100 万円を委託している。市の担当者は「財源がすべて一般財源であるため、財源確保が今後の課題である」と話している。

本宮市コミュニティ交流広場

東日本大震災によって避難生活を送ることになった浪江町の人々と本宮市民との交流を促すため、浪江町で盛んだったパークゴルフを通じて避難者と市民と一緒に楽しめる場所として整備し、現在日本パークゴルフ協会の認定コース（9コース×2・18ホール）になっている。

シーズン中は、パークゴルフ協会や市が主催する大会が毎月開催。利用者は75歳以上が中心で、市内の利用者は減少しているものの、市外の利用者が伸びており、令和6年度は7,258人/年（前年度比321人）の利用があったが、市外への利用促進活動は行っていないため「ロコミ」による効果ではないかと市担当者はとらえていた。

全体の施設管理はシルバー人材センターへ委託（200万円/年・管理棟運営等）、芝管理は専門業者に委託（700万円/年・芝刈10回/年等）しており、光熱水費等を含めると、維持管理には1,000万円/年程度必要とのこと。クラブハウスに管理者1名が常駐しており、熱中症の危険があるような場合には利用者へ声がけしているが、基本的には利用者自身が判断し熱中症の危険がある場合は利用を控えている。

出水時における「避難誘導」や「撤去できる物の搬出」等の対応について条例等に規定しており、終息後はコース上のゴミを撤去等し再オープンする。

令和元年度台風時はコース上に泥が堆積したため、芝を管理している業者に相談し撤去作業を実施（委託料200万円程度）したが、それ以降は高水敷まで水が上がることはないとのことである。

交流の場として利用者にとって欠かせない施設となっているようであったが、本町の人口約4倍の市であっても7,000人程度/年の利用者にとどまっており、パークゴルフ場による交流人口増の効果は、整備・維持管理費用に対し低いものである印象をうけた。

桑折町ピーチリパーク157

地域の交流や賑わいを創出することを目指して阿武隈川の河川敷に整備された多目的親水公園で、平成30年3月に国のかわまちづくり支援制度に登録されている。

多目的広場、親水護岸及び管理用通路といったシンプルな整備内容となっており、利用規制は無くいつでもだれでも利用できる「ひらかれたかわまち」であ

る。

自由に利用できるためイベント実施時以外の利用者は不明であるが、平日はウォーキングなどに利用され、土日にはキャンプやBBQに利用する人が多く確認されており、警察本部や消防組合などによる訓練や、自然に親しむ協議会・町主催のイベントも行われている。

出水時は町職員が入り口を封鎖し、終息後は河川管理者と協議のしながら状況に応じた対応をとることとしているが、整備後に高水敷まで水が上がったことはないとのことだった。

東屋等の日陰となる物が一切無いため、熱中症の危険性高い季節については利用者に各自対応してもらうこととしている。

維持管理については、かわまち計画区域内ではあるものの、現在は利活用できていない箇所については草刈りを行っておらず、人の背丈以上に伸びている面積が相当程度見受けられた。現在利活用している範囲内については、かわまちづくり協議会役員による草刈り（2ヶ月に1回）のほか、シルバー人材センターへの草刈業務委託（4月～10月の間に11回（6月～9月は2回/月））を行っており、最低限の状態維持であっても高頻度での草刈りが必要であることが分かった。

福島ユナイテッドFC

「十六沼公園」（福島ユナイテッドFC等練習施設）

「安斎果樹園」（同農業部関連農家）

「ふくしまさいえねパーク」（同パートナー企業所有施設）

福島ユナイテッドFC（株）AC福島ユナイテッドが運営）は平成23年2月に設立。令和6年から東邦銀行、福島テレビ、福島民報、スポーツXを含む複数の企業が参画し、経営基盤を強化している。福島市を中心とする福島県全域ホームタウンとしJ2昇格を目指しながら、福島県や福島市と連携協定を結び、行政と一体となった地域活性化を目指している。また、年間約280回の健康促進活動と、年間約120回の地域貢献・社会貢献活動を行い、選手やスタッフが住民との交流を図っている。

「十六沼公園」は、福島ユナイテッドFC、みちのく仙台FCやアカデミーの練習場として利用している当該施設は福島市の所有であり、維持管理についても全て市で行っているが、福島ユナイテッドFCが優先利用できるようになっており、自治体としてのバックアップ体制が充実していると感じた。また、アカデミーは元アンダー日本代表監督である指導者を中心に指導しており、生徒が意欲的に取り組める環境が整っていて、中学校の部活動に所属していない生徒も多く、今後加速する「部活動の地域移行」の受け皿としても有効なものである

と感じた。

「安斎果樹園」は、Jリーグ唯一の農業部である福島ユナイテッドFC農業部と連携している地元の桃農家であり、桃の剪定から収穫まで全てに選手が携わっている様子について、提携農家側からの話を聞くことができた。最後に、福島ユナイテッドFCのパートナー企業であるアポログループが所有している「学習施設を併設した太陽光発電設備」である「ふくしまさいえねパーク」に場所を移し、活動内容等についてより詳しく説明を受けた。

まとめ

玉川村「乙な駅たまかわ」

本町においても、現在のかわまちづくり計画のコンセプトがぶれないようにしながら、経済性・継続性の高い整備内容としていく必要があると改めて感じた。また民間による資金調達を含め、町の財政上もっとも有利となる手法を検討していく必要があると感じた。

矢吹町遊水地群（第2）試験圃場

本町において遊水地整備対象となる可能性がある箇所も農地であるため、同様の調査を行う必要が出てくる可能性があると感じた。

須賀川市田んぼダム

田んぼダムは補助的な効果を求めるものであり、目に見えて効果が見えづらいとのことだったが、多くの農地を抱える大郷町においても参考とすべであると感じた。

本宮市コミュニティ交流広場

本町でパークゴルフ場整備を検討する際には、整備目的を明確にし、目的に沿った整備規模・品質とする必要があり、場合によっては、パークゴルフ場ではない施設に変更する必要があると感じた。

桑折町ピーチリパーク157

本町のかわまちづくり計画区域は約8haと広大であるため、草刈りにおいては自動除草機を導入によるランニングコストの軽減等を検討しなければならないと感じた。

福島ユナイテッドFC

福島ユナイテッドFCでは「農業部桃課」や「農業部米課」など連携している

農家で作成している作物毎に組織化し、選手が部長等責任者となった上で主体的に活動していくスキームを作っている。社会連携活動として選手が自ら育てた農産物を県内外でPRしており、6次産業化へ向け商品開発も実施しており、農業を基幹産業とする本町においても同様の取組を行っていくことにより、農業従事者の利益創出・認知度向上に向けた取組みの参考とすべきではないかと感じた。また本町が推進しているSSP構想の誘致の観点から、スポーツX社が関わっている福島ユナイテッドFCの取組みは、大いに参考するべきと考える。